

東海聖会報

「きよめと宣教」

川崎 豊

自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。使徒言行録20:24

ジョン・ウエスレーはきよめの恵みを次のように言っています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝」<テサ5:16>することであると。このような霊性を私たちはいつも備えられていると言えるでしょうか。しかし私たちが主を仰ぎ、自分自身を主に全く委ねて歩むとき、聖霊は私たちをそのような霊性をもって生きる者にくださるのです。その信仰が「きよめの成長、成熟」をもたらすと確信します。

又、救世軍のブレングルは「聖潔とはいつでも、どこでもただ神がなれと仰せられるままになり、なせと仰せられるままを行うところの、心と生活とをいうのである」と言っています。ここには、三位一体の神の御言葉と御心に献身することを最も喜ぶ霊性が表現されています。

きよめの証し

私は18歳で直接伝道に献身し、聖書学校で4年の訓練を受けました。寮生活を送る中で、教師や同僚との人間関係に躓き、聖書学校の退学も考えたことがありました。しかし人を見るのではなく、主の御言葉に信頼を置いて生きることの大切さを学んで卒業しました。しかしきよめの確信と体験に立てていなかった故に、伝道師になっても人間関係に行き詰まり、メッセージも取り次げなくなりました。しかしその後の新年聖会で「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません」<ヘブル12:14>の御言葉によって立ち上がり、喜びと感謝を持って奉仕出来るようになりました。しかし単身で新任地に遣わされて間もなく、会堂建設という課題に遭遇し、心労が重なり病に倒れてしまいました。3ヶ月間故郷で療養生活を送る中で再

度、「あなたの重荷を主にゆだねよ / 主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え / とこしえに動揺しないように計らってください。」<詩55:23>の御言葉を頂いて復帰することが出来ました。

私はきよめは「生きものだ」と思います。瞬間的な経験も大切ですし、確信も大切です。しかし日々祈り、信じ、委ね、感謝しておりませんと神と共に生きる喜びは持続しません。

私たちの使命

キリスト者の最大の使命は愛を持って隣人にキリストによる救いを証しすることです。しかし現実の日本の教会を見るとき、きよめと宣教の意識は必ずしも一つになっていないように思います。きよめられて教会生活は忠実で、良く奉仕しますが家族や外に向かったの証し(宣教)という点では足りなさを覚えます。

一人の友人が私に言いました。私はかつてきよめを標榜する団体にいました。しかし今は距離を置いています。それはきよめの恵みが宣教に直結していない姿を見たからです。真摯に受け止めなければならない言葉だと思います。

ポーロ・リース博士は述べています。「キリスト者の証しと救霊の業は、私たちが決意を持って臨む使命である。人々をキリストに導くことが使命であるということを知るまでは、私達はキリストに完全に捕らえられているとは言えない。救霊が職業になること、そのためには、全てをイエスに委ね切ることが必要です。...キリスト者にとって宣教は本業であり、天職であり、職場は副業である」と。

パウロは「...神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません」<使徒20:24>と言いました。キリスト者の使命の原点といえます。

きよめとは神と共に歩むことであり、神と隣人を心から愛することです。そして隣人愛は宣教の形を取るのです。ここでお互いは再度、私を見つめる主の御顔が曇っていないか確かめることが大切なのではないでしょうか。

(野田キリストめぐみ教会牧師)

第15回遠州聖会 「生きることはキリスト」

庭の水仙がほほえむ2月20日聖日礼拝の午後「遠州聖会」がもたれ、会場のインマヌエル浜松キリスト教会には主の招きに期待して132名が集いました。聖書「フィリピの信徒への手紙1章18～30節」により「神とともに歩む日々～神のために自分が生きる」が主題でした。浜松真愛教会今田好一牧師の司会により賛美と祈りが捧げられまたインマヌエル磐田教会聖歌隊の賛美に聞き入り心を主に向け整えられて開会されました。

今回は、高松新生教会牧師であり関西聖書神学校教師である小野敦子先生を講師にお招きし、「わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは益なのです。」(フィリピ1:21)の聖句より「生きることはキリスト」と題し、ご自分の信仰の証しを通して聖化の信仰を熱心に丁寧に説いていただきました。大学時代、生きる意味を教えて欲しいと星空に苦しみ叫んだ声に主は真実に応えられ、クリスチャンの先輩により集会に招き、神の愛を知らせ、キリストに出逢わせられた。以来、信仰による求め祈り魂の深い渴きを主がどんなに真実に豊かに導き満たしてくださったか。神様は御子キリストの十字架の血潮によって罪から救うため徹底的な悔い改めへと

導き「わたしはキリストとともに十字架につけられているのです。…キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラ2:19,20)を信仰を持って受けとめたこと。原罪の絶望の陰府にまで降ってくださったこと。主がともに歩んでくださり、新生、聖化の豊かな恵み、聖霊のバプテスマ、主キリストの内住の喜びと幸いへと導かれたことを語られました。神学校入学後、フィリピ1:21節の聖句が刻まれた英国のウィリアム・ビー師の墓石を前にして、「キリストのため、日本のため、命を注ぎ出して、日本の土になられた神の器の貴い生涯を思い、かくなさしめたイエス・キリストを思い、感動で満たされ生涯忘れられぬ聖句となった。」「救われたからには本当に地の果てまで主の証人になりたい」との救霊と伝道の熱い願い。深く聞く者の心に迫り聖化の求めを促すお話でした。

初めての女性の講師、温かな語り口に親しく母の諭しのように素直に心に響いた方々も多かったのではないのでしょうか。アンケートで多くの方が分かりやすく聖化の恵みを聞いて良かったとありました。

《聖化大会が続けられるよう感謝の献金は94,339円捧げられました。》

(浜松ウエスレアン教会伝道師 木村葉子)

本の紹介

岩上敬人著 「パウロの生涯と聖化の神学」

著者岩上敬人(いわがみ・たかひと)師は、イマヌエル狭山キリスト教会牧師、イマヌエル聖宣神学院教師である。1968年生まれなので、現在43才とのこと。

本書の3分の1の分量で、パウロの生涯が描写されている。パウロが生きた時代、民族、家庭、教育、回心、信仰、宣教、召天が丁寧に記されていて、感動する。年譜も便利である。

聖化の神学は、パウロの13の書簡のうち3つから聖化を掘り下げている。まず、ローマ人への手紙である。5～8章から、キリスト者が(1)神の支配への献身をし、(2)キリストの律法に仕え、(3)御霊の法則によって、聖化の恵みにあずかることができることを浮き彫りにしている。

第2として、コリント人への第1の手紙を取り上げる。ことに5～6章から、聖徒として召された信徒が、(1)性的不品行から聖別されず、(2)教会内の係争が世

の法廷に持ち出されている事実から、信徒のからの神聖さと教会の神聖さを説く。聖い生活に光を当てる。

第3としてテサロニケ人への第1の手紙を問題とする。パウロはテサロニケ伝道で、聖化の恵みを人格的と実際的とで模範を示した。誤った終末観から怠惰な生活を清算することを教えた。神に責められることのない全き聖化を示す。そつない論述はみごとである。

本書を通読してわかったことがある。パウロによる宣教の主題が聖化にあったことである。信徒各自が聖なる民としてのアイデンティティーを確立し、教会が世と倫理的境界線を明確に引き、聖化による愛の一致をめざすことである。学的刺激がありながら、聖なる幻を植え付けてくれる1冊である。

日本聖化協力会出版委員会刊3800円+税

(松浦 剛)

インマヌエル浜松キリスト教会

牧師 田辺 岩雄



正式にはイムマヌエル総合伝道団浜松基督教会と呼ぶこの教会は、1954年に創設されました。何度かの引越しを経て導かれたこの地(東区)は、周りに水田も多く残り、蛙や何種類もの鳥達の姿も多く見かけます。また、東海で最大級のショッピングセンターが近くにあり、休日には近隣各地から車が押し寄せて来ます。

教会員は40代の家族が中心で、CSから続いている方々も少なくありません。それでも、幼児、児童、青年、壮年、熟年の各層が真実に集う、恵まれた年齢層の教会だと思えます。ここまで多彩な伝道や聖会、コンサート、バザー等を活発に行ってきた歴史

がありますが、今は自分達の賜物をもっと生かした伝道活動を祈り求めつつ挑戦しています。

遠州地方の方言に「やらまいか」があります。これは、とにかくやってみよう！という前向きの表現です。教会では、数年前からこの言葉を信仰的に表現して生きています。それは 「や」= 神の約束(み言葉)に生きる。「ら」= 約束を信じ楽観的に生きる。「ま」= 約束を待ち望んで生きる。「い」= 約束を握り祈りに生きる。「か」= 約束によって感謝と感動に生きる。 となります。

「やらまいか」の教会として、聖書と聖潔と宣教に、明るく燃やされて前進したいと祈り進む群でありたいと願っています。

日本ホーリネス教団名古屋城北教会

牧師 新田 栄一

当教会は1957(昭和32)年頃に開拓され、この地で50年以上の歴史を刻んでいます。歴代の牧師は、最初の一年間は、後に当教団の学院長を長年務めた小林和夫師、次の三年間は後に日本FEB Cで放送伝道に携わる小林八郎師、その後を中村健師・和子師が44年間(和子師は途中で召天)、2006年度からは現任の新田栄一師・貴美子師が務めて現在に至ります。最近の課題は、高齢により来会困難な兄弟が出ていることと、老朽化した建物と駐車場の改新です。

この数年の特徴をあげてみます。第一に、メソジストの伝統である監督制・任命制を活かすこととして、役職・聖務の任命式をしています。年度替りに事前に奉仕希望の調査をして、幹事会で熟慮の上決定し、新年度に向けて礼拝において牧師が役割と名前を読み上げます。第二に、当教団の方針でもある伝道第一を運営の基本としていること。聖別は人を宣教に向かわせる恵みであり、教会の地域的使命は第一に救霊であることを自覚します。例えば聖歌隊を訓練して路傍伝道やキャロリングで歌い、クリスマスには教会外に福音を伝え外来者を集める伝道会に尽力しています。

第三に、ウェスレーの自覚に通じることですが、聖書信仰・みことば信仰を基礎に据えて、ディポーションや数人での聖書研究(熟読式)を推進しています。第四に、最近の傾向として、児童伝道が盛んであり、聖日午前の日曜学校のほか、水曜日夕方や土曜日昼の子ども集会で小学生を集め、特別子ども集会もたびたび開きます。子どもたちが将来には、主の弟子となり教会を支える柱になることを期待しています。



18th 東海聖会

テーマ「きよめと宣教」

講師 川崎 豊師



1950年、北海道の貧しい開拓農家に生まれ、牛の乳搾りをしてから登校するという子供時代を過ごす。牛を飼ったという経験は、語るメッセージにも反映されることが多い。東京聖書学校卒業。淀橋教会伝道師、旭キリスト教会、向島キリスト教会牧師、淀橋教会副牧師を経て、1997年よりウェスレアン・ホーリネス教団野田キリストめぐみ教会牧師。

とき

6月25日 土 2:30PM

6月26日 日 2:30PM

ところ

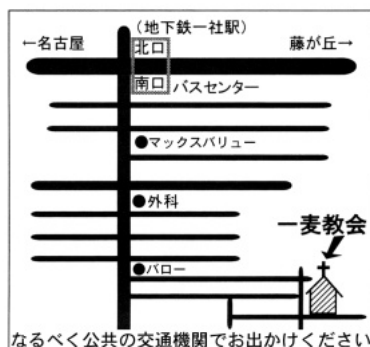
活けるキリスト
一麦教会

名古屋市名東区亀の井2-102
☎ 052-701-4221

東海聖化交友会

〒453-0053 名古屋市中村区中村町7-46福音センター

☎ 書記 / 0562-97-6468



学びの時 調和と均衡の人 ジョン・ウェスレー

2月28日、東海聖化交友会の総会議事のあとで、「調和と均衡の人 ジョン・ウェスレー」と題してインマヌエル磐田キリスト教会牧師竿代忠一先生からジョン・ウェスレーの神学を学ぶ時が持たれました。

オズワルド・スミス「多くの学びの結果、私の確信させられたことは、初代メソジストたちがいかなる人々よりも使徒の経験に近かったと言うこと」という証言を紹介された後、ニコルソンの「真のホーリネスの生涯の正しい指導と正しい示威のためには、教理と体験と実践の正しい結合が必要である」という言葉を紹介し、ウェスレーにおいてまさに教理と体験と実践が調和し、均衡が取れていたことを彼の著作と

実践から説かれました。

特に実践において「全世界はわが教区」として毎年13000キロを巡回し、ただひたすら魂を救うことに没頭し、しかも、金銭、時間、衣服、家庭、安息日、言葉、飲酒、売春、奴隷制など、社会のあらゆる問題に関わっています。

結語として、宗教の使命として次のようなチャールズの讃美歌が英語原文で提示されました。

(訳は聖歌317、インマヌエル讃美歌628による)

生を受けし時代のため

力を尽くして召しを果たさん

(日本基督教団尾陽教会 石田聖実)

報告

- 3月11日に東日本を襲った未曾有の大地震。週が明けた15日、被災地域にある5つの聖化交友会(北海道・宮城・山形・栃木・関東)の仲間に、僅かながらのお見舞金を添え「東海から祈っています」と便りをしました。主がTHA会長に思いを起こさせた、聖化の交わりの愛の実践です。お送りした微々たるものに、大変な中から早速感謝とお礼が寄せられ、実際の支援とともに、聖であられる方を信じる者の祈りの務めも決して小さくないことを教えられました。
- 東海聖化交友会のホームページが新しくなりました。 <http://tokai.holy.jp/> です。(秋山)